
■ さろん | Mail News 2018/4/16 | #113 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.113 2018年4月16日(月)=====

さ | ろ | ん |

— — —

M | a | i | l | N | e | w | s |

— — — — —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

=====

—INDEX—

- | 【おしらせ】(4/25) ゆるカフェ座談亭／テーマ：「(当日募集)」
| 【1】誌上哲学カフェ「ミニさろん」第11回
| 【2】コラム／エッセイ
| ◇『“考える”ということについて思う ～朝さろん後の雑談から～』
| ◇『トキメキと冷静。』
| 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
| 【3】コトバをハーバリウムする
| 【4】さろんアーカイブの遊歩道
| 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

(4/25) ゆるカフェ座談亭

テーマ：「(当日募集)」

通称『ゆるカフェ』。ゆるやかに営業中です。

今月のテーマは「(当日募集)」。

直観重視で、胸に手を当てて、おしゃべりしたいテーマを持ってきてみてください。

それもいいね、そっちも面白そうだね、とウロウロしながら、「いま話したいこと」の中心をゆる〜く掘りさげてみましょう。

4月25日(水) 19:15 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

4月25日(水) 19:15 - 21:30頃

代々木近辺の喫茶店(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

(幹事：せりざわ)

【1】誌上哲学カフェ

「ミニサロン」第11回

テーマ：『人生の満足度は才能で決まるのか、努力で決まるのか』

14歳でプロ棋士としてデビューし、勝負の世界で活躍する藤井聡太六段。

その陰で夢叶わぬまま退場するものも数多い。

幸せを勝ち取れるのは才能に溢れた一握りの天才のみか。努力が報われることはあるのか。

才能派、努力派、それぞれの立場の人々にインタビューを試みた。

テーマ：『人生の満足度は才能で決まるのか、努力で決まるのか』

(徳川家光子)

才能って見えないし触れないじゃん？(=不明値)。同じ種類の才能を持った集団のなかだと急速に陳腐化しちゃうし(=固定値)。それでも才能は人生の満足度に決定的な影響を与えるものだとウチはおもうの。ウチのオカンは「息子が生まれたら絶対にジャニーズに入れる！」って言ってたんだよね。だから高身長でまずまず男前だったウチのパパを捕まえて結婚したの。でも、肝心の弟が、ウチから見ても「う〜ん」って。ワックス付けたり、ピアス付けてそれっぽくしてみても「う、う〜ん」って。歌も踊りもダメっていう三重苦だし。ジャニーズってよりはどうみてもお笑い芸人なのよ。しかも吉本じゃなくてマセキ芸能みたいな。一番ヒドイのは、肝心の弟もジュニアに入る気

満々になっちゃって。こないださ、履歴書送った返事が来たんだけど案の定で。そっからひきこもっちゃってるんだよね。なぜかオカンも。だからやっぱり才能はある方がいいんだって絶対。ウチ？ウチはこないだ原宿で事務所の人に声かけられたよ。もう何回目だろ。でもウチは芸大行って彫刻家として食べていきたいんだよね。どう？美人彫刻家。その才能があるといいな。

(徳川家康夫)

才能なんて曖昧なもので人生が決まるなんて、僕には到底受け入れられないね。人生はやはり努力の積み重ねで決まるものだよ。努力はどのくらいの時間、どんな方法で頑張ったかはっきり記録できるし、どんな成果が得られたかはっきりしているからね。努力は裏切らない。僕の中学・高校時代の彼女が才能信者でね。今となっては何であんな奴と付き合ってたんだかさっぱり分からないんだけど、とにかく自分の才能に絶対的な自信を持っている奴だった。子供の時からピアノにテニス、水泳、何をやらされても何でもそつなくこなしたらしいし、勉強も高校2年の途中までは常に学年トップの成績だった。「勉強なんか必要ないわ。一度授業を聞けば全部分かるもの」といつも口にしてたよ。僕は毎日その日の授業の復習を一生懸命やっていたけど、成績はいつも学年の半分より下だった。それが高校2年の3学期最後の期末テストで突然学年10番になれた。努力が報われたんだと確信したよ。反対に彼女はどんどん順位が落ちていった。慌てて勉強を始めたけれども手遅れだった。今まで才能に頼りっぱなしだったせいで努力の仕方が分からなかったんだね。彼女とは受験前に別れてしまったけれど、僕は東大現役合格、彼女は風の噂ではどこにも合格できず浪人中らしい。哀れだね。今度付き合うなら僕のように驕らず努力を重ねられる方がいいなあ。

(徳川家茂美)

二人の意見は人生の満足度の決定要因が才能か努力かで割れているのね。一つひとつ考えてみましょう。才能だけで何かに秀でているように見える人、例えば、アイドルでも、単にルックスがいいだけではその世界で生き残れないから、歌や踊り、話の技術等を練習する努力をしているはずよね。逆に、努力だけで秀でる人、例えば、毎日復習を繰り返す勉強家だって、その努力を長く続けるためには人並み以上の忍耐力か、あるいは、強い意志や拘りが要ると思うけど、それらも才能の一種なんじゃないかな。人生の満足度を高めるために必要な要因を考えると、努力と才能とは決して排反し合う唯一の十分条件ではなくて、どちらも共存していなければならない必要条件なんじゃないかしら。

一方、二人の意見には共通点があるようね。人生の満足度は、何かで他の人達から秀でて成功することで決まると考えている。本当かしら。もちろん、そう考える人もいるわね。でも、どんなに学業や仕事で成功した人でも、家に帰れば私生活が荒れて後悔に満ちているかもしれない。逆に、学業や仕事では成功してない人でも、充実した私生活をして満足度が高い場合もあるわよね。だから、人生の満足度は、自分にとって何がそれを決めるのか、つまり、何が自分の幸せかを知っているかどうかで決まるんじゃないかな。

【2】コラム/エッセイ

▽【“考える”ということについて思う ～朝さろん後の雑談から～】 聖理

▽【トキメキと冷静。】 セリンジャー

哲学対話における自分の考えの生成過程を武田朋士氏はこう語る*1。「私たちは、すでに話す内容をすべて心の中で言語化してから話すということは、実はあまりしない。何かしら話したいことが漠然と感じられ、切り口となる言葉さえ思いつけば、話し出すことができる。考えてから話すというよりも、話しながら考える、話して考える、ということがある。この場合、すでに述べたように、他者の表情、相槌、しぐさ、場の空気などに反応しながら、考えを述べていることになる。自分の考えが、少なからず、自分の考え以外のものを巻き込みながら、話されるのである。そのようにして話された自分の考えを、私たちは疑うことがあまりない。これは『本当に』私が言いたかったことなのか、と。特にそのような疑いを抱かないのは、恐らく、私たちはすでに自分の中にあった『考え』を話した、と思いこんでいるからである。しかし、多くの場合それは誤解である。実際に話されたことこそ自分の考えであり、話される前に『考え』はない」。

一方で、田坂広志氏は語る*2。「一つのテーマで文章を書くとき、どうするか。多くの人は、文章を書くとは、次のようなことであると思っている。①まず、そのテーマについて、頭の中にあるアイデアを、一度、メモなどの形で、すべて外に出してみる。②次に、そのアイデア全体を眺め、整理し、考えをまとめる。③そして、その考えを、論理的に、分かりやすく、文章にしていく。…次に、その考えを、論理的に、分かりやすく文章にしていこうとすると、自分の中の『賢明なもう一人の自分』が囁き出す。…この『もう一人の自分』が囁き出すと、なぜか、その囁きに素直に従おうという気になり、そこから本格的な執筆の作業が始まり、一つの文章が自然に生まれてくる。…このようにもし世の中に『深く考える力』というものがあるならば、心の奥深くにいる『賢明なもう一人の自分』の声に耳を傾けることであろう。その『賢明なもう一人の自分』は、いつも静かに我々の思考や思索を見つめている。そして、ときおり素晴らしいアドバイスを与えてくれる」。

哲学対話や対話ワークショップを実践する哲学者は、「実際に話されたことこそ自分の考えであり、話される前に『考え』はない」と主張をし、経営者向けに21世紀の知性を目指す私塾の塾長は「『深く考える力』というものがあるならば、心の奥深くにいる『賢明なもう一人の自分』の声に耳を傾けることである」と説いている。言語化する前の漠然と感じられたことを他者と対峙しながら一度外部へ向かって話すことで初めて自分の考えとなり、その自分の考えに対して、隠れた賢明なもう一人の自分の声に耳を傾けることでその考えをさらに深化させていく。このような過程全体が“考える”ということなのかもしれない。両者の主張で共通していることは、考えるためには、相手が他者かもう一人の自分かの違いはあるが、“対話する”ことが必要という点ではないか。身近で気軽に参加できる「考えることができる場」として哲学カフェはある。こういう場がさらに全国各地で広がっていくことが筆者の密かな野望である。

*1：武田朋士著：「哲学カフェにおける対話と哲学性」

*2：田坂広志著：「深く考える力」

▽【トキメキと冷静。】 セリンジャー

ある人が、「人生はちょっとした塩辛さも要求されるバカンスである」と言ってるのを偶然耳にして、普段ならまったく気にとめないのに、ちょうど「楽しいってなんだろう？」っていう問いの門前で رفتり来たりしていたところだったので、それを聞いて妙にストンと納得してしまう、そんな夜がありました。

「ちょっとした塩辛さ」というのが風情があつていいと思いませんか。

楽あれば苦あり。智に働けば角が立つ。情に竿させば流される。意地を通せば窮屈だ。そんな名作の一節もありますが、この“ちょうどいい塩梅”を見積もれるようになってきたりすると、ずいぶん肩の力が抜けてくるんじゃないかと思えます。

ざっくりこの10年、哲学カフェ・文学読書会・ワークショップ（WS）を含んだ広い意味での哲学プラクティスを軸にいろんなことを実践しながら学んでいる最中です。そこで今回は、「人生はちょっとした塩辛さも要求されるバカンスである」ということと、「まなび」の関係について考えてみたいと思えます。

試しに哲学カフェを学習の観点から捉えてみましょう。

いま入試改革や授業改革などで盛んにアクティブ・ラーニングや課題解決型学習ということが言われています。そしてその流れのなかで、教育の現場で哲学対話を取り入れられたり、P4C（子どものための哲学）が目目されたりということも起きているのは皆さんもご存知のところだと思います。なぜ「課題解決型学習の一環として哲学対話が目目される」ということが起きるのでしょうか。それは哲学対話に学習的な側面があるからです。しかもそれは、机に座って一生懸命ノートを取るようなスタイルや反転学習とは異なる、教育現場から見ればまだまだ新奇性に富んだ学習、という性格を備えているからだと思います。

ちょっと思い出して頂きたいのですが、あなたは勉強が好きでしたか。学校の勉強に四苦八苦したことって、皆さん一度はあるんじゃないでしょうか。勉強の好き嫌い、得意か不得意かに関係なく、毎日毎日、学校や塾で（もちろん家でも）勉強をしていた、あるいはさせられていたのではないかと思います。でも、その時やっていた勉強の積み重ねの「その先」について考えてみる機会って、勉強時間に比して、実はとっても少なかったのではないのでしょうか。

かく言う私自身がそうでした。予習や復習はすごくやるのに、勉強をした先のことはあまり考えることがありませんでした。せいぜい、どの高校／大学に進学するのか、理系／文系のどちらに進むのかという時くらいです。だから数Ⅲでつまづいたとき、なんのために定理や公式を覚えているのかわからなくなって、一気に数学が苦手になってしまいました。あなたにもそんな様な経験ってあったのではないのでしょうか。

学校を卒業すれば勉強なんかしなくてもよくなる。——そんなことはないんです。もちろん、社会に出てからの勉強は学校の勉強とはかなり様子がちがってきますし、勉強する内容も人それぞれ異なってきます。だからみんなが同じ内容を決まったペースでやる学校の勉強で優劣や順位が付けられることが苦手な人はずいぶん気が楽になるかもしれません。でも、学ぶことがなくなるということは生きている限り（おそらく）ありません。じゃあ勉強にどう向き合っていくのがいいんでしょう。

大人になった私から、数Ⅲで転んだ（キチジロー）昔の自分にアドバイスができるなら、こう言ってやろうと思います。——「勉強」と「学習」のちがいを知ることだ。

やらされてやる方が「勉強」だとすれば、自分から進んで学んでいく方を「学習」と言い換えてみましょう。学習という視点で世の中を見回してみたとき、対象は無尽蔵といってもいいくらい存在しています。だから苦手や嫌いなものがあってもいいから、世界の中からひとつでも私たちが興味を覚えていることを見つけて、それを夢中で問い続けてもらえたらと思います。

学校での勉強は、「学習」という大きな器から見たらその一部に過ぎません。九九や数学のような“できる”という学習（行動主義学習観）や、分数の割り算の意味を理解したり説明できるような“わかる”という学習（認知主義学習観）だけが学習のすべてではないのです。知識を獲得し、正解を獲得していくこうした学習は本当に大事ですが、「まなぶ」ということはもっとずっと奥が深いんです。それは「探究」に似た試みです。

“できる”とも“わかる”とも違う「まなび」。その一つが、例えば“分かち合う”“影響し合う”“混ざり合う”というような学習、大人が「社会構成主義学習観」と呼ぶ実践です。学習とは、必ずしも自分ひとりでやるのではなく、自分と他者（社会や共同体）とのあいだで行う協働的なものでもあるのです。

自分とは違う考え方や感じ方をする大勢のひとたちとの相互作用を通して、それまでの自分が持っていた考え方や異なる価値観に出会う行為も、正真正銘、立派なまなびです。ふだん学校でやる学習よりも手間がかかるし、効率は良くないかもしれません。やる前とやる後で知識が増えたりもしませんし、前後の変化を保証することもできません。でも“分かち合う”まなびは、時に鮮烈な体験につながる可能性があります。自分ひとりでやる学習では決して得られない体験からまなべるからです。

広い意味での哲学プラクティスには、“分かち合う”“その過程として対話を重視する”“状況に埋め込まれたまなびに体験を通じて実践する”など、社会構成主義としての学習観に合致する面が多くあります。哲学カフェでは、単に知識の獲得を目指すことなく、単に何かを説明できるようになることでもなく、自ら積極的にプロセスに参加するなかで異なる当たり前を持つ他者とのあいだで意味を生成していくこと自体に内包されている学習性の価値が尊ばれているのです。ですから、哲学プラクティショナーは、それがよりよく実践されるように枠組みをデザインし、場を設え、たゆまず実践を繰り返しています。冒頭で述べた哲学カフェを学習の観点から捉える、とはこういう意味です。（とはいえ、哲学プラクティスは単に“まなび”に留まるものではないとも考えています。それがなんであるのかはまた別のお話し。いつかまた別の機会に話せたらと思います）

だから数Ⅲが苦手な過去の自分にもし出会えるならこう言ってやりたいと思うのです。「勉強」ではなく「学習」という見方を大切にしたい、と。探究につながる「まなび」という視点を遅しく養って欲しい、と。そして人に用意された問いではなく、自分自身が納得できるまなびを数多く経験していつてもらいたいなと思います。

あらためて、「人生はちょっとの塩辛さも要求されるバカンスである」とはよく言ったものだと思いますか。哲学の研究をやっている人の中には「哲学に出会って救われた」というニュアンスのことを話す人も少なくない気がします。哲学カフェに慣れ始めたある時、自分もそういう気分になったことを覚えています。塩辛くても、それでもバカンスなんだと。だから自分なりに半生を泳いできて、他者の存在によって対話が要請されるようなまなびの取組みを続けている中で、「楽しい」

という瞬間もたくさん味わうことができました。すばらしい友人たちもできました。そういうことを昔の自分に伝えてやりたいなと思います。大人である私にできる等身大のアドバイスとして、こんなメッセージを添えて。——『人生はバカンスだ。だからちゃんと楽しい思い出をつくっていきましょう』。

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【3】

コトバをハーバリウムする #30 (クスノキ)

本のコトバから

人は、一個の肉体しか持たない存在である。その身体の深奥に集積された記憶は、感情というものとなじ交ぜになって、現在のあるべき彼等を縛っていた。だからこそ、変化に対しての憧憬を抱いて、彼等は、刺激し合おうと欲望するのである。

——富野由悠季『機動戦士ガンダム 逆襲のシャア ベルトーチカ・チルドレン』

歌のコトバから

僕等は目指した Shangri-La
欲望は抑えきれずに
空想にまみれた 「自由」を求め続けた
距離をおいてこそ 自分の大きさを知る
未熟な心は それさえ分からないまま
今なら言えるだろう 此処がそう樂園さ
さよなら 蒼き日々よ

——angela 『Shangri-La』 (作詞 : atsuko)

【4】
さろんアーカイブの遊歩道 #24 (貉)

カテゴリ : 【さろん工房 レシピ】 第5回
テーマ : 「磯野家と野比家が共同生活する家」
開催日 : 2012年5月20日

<http://salon-public.com/koubou/sakuhin/koubou05.pdf>

この小欄は、さろんで過去に実施されたり記録されたりしたあらゆるものを「アーカイブ」に見立てて、毎月そのアーカイブの中で気になるものを今の観点から紹介するのを趣旨としています。「欄」を設けてまでなぜそんなことをするのかというと、「人は忘れる生き物だから」ということにつきまします。ぶんが実施した企画ですらそうなんですから、ほかの人が実施した企画だったりすると、当時参加していたはずなので「へえーすごい面白そう」と魅力を再発見したり、「こんなに風に練られてたのか」と後から仕掛けに気づいたりして大変おもしろいです。振り返ることそれ自体が、大変豊かなまなびをもたらしてくれます。これは大事なことから声を大にして言いたいのですが、特に「じぶんが主体的にかかわった取組み」を見つめ直すと、何度でも再発見があります。じぶん(たち)の過去を見つめることで、じぶん(たち)の次の一歩につながるような発見が生まれる。単なる自己模倣ではなく、省察ができて一歩深みをますからです。

前置きが長くなりました。今回とりあげるさろん工房「磯野家と野比家が共同生活する家」は、国民的に有名なあの二家族が共同生活をする、というトンデモな設定が用意されています。この設定下でワークショップで、参加者は“生活を想像することとは、どのようなことなのか。”という視点が問われます。哲学カフェがそれを抽象化し深めていくのだとすれば、さろん工房のワークショップでは“全ての導線が集まる、家の中心はどこか”とあくまで設定に即した解答を用意することが求められています。哲学カフェに慣れていればいるほど、さろん工房では違う脳ミソが試されます。

このワークショップでは、家族という“他者ではない「他者」”に“内在する導線をたどる”とい

うことも意図されていますが、実は当時同居をはじめようとしていた企画者の気持ちの準備として必然的に要請されたテーマだったのかもしれませんが。私的な関心事を一般化し、普遍的な問いに仕立てなおすという作家性の強いものでもあった。そういうことにいま現在だからこそ思いを馳せることができるのでした。そして本当ならこの理解の上にならって、実施後のフィードバックコメントを伝えられたらなおベターだったと思うのです。

編集後記

メールニュース第 113 号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

新年度 4 月も折り返し地点ですね。

呼吸を整えながら、大型連休を心待ちにしている時期ではないかと思います。新緑が目心地いいこの連休をみなさんはどこで過ごされるご予定でしょうか。

さろんのスタッフ MTG というのがだいたい月初第一月曜の夜にあったりするんですが、今回はちょうど連休明けに当たるんですね。

スタッフ某氏は連休はまるまる欧州イタリーを訪問されるそうで(羨ましい!)、いまからお土産のナポリピザやビスコッティが楽しみで仕方がありません。

ほかのスタッフもけっこうアクティブ派が多くて、みんなの連休報告を聴くのが楽しみです。

そんな連休前の 21 日(土)、今年度最初の「さろん哲学」(例会)があります。

中目黒の秘密基地みたいなブックカフェ「Under the mat」が会場ですが、もう少し時期がはやいと川沿いの桜並木が実に荘厳華麗なんですよ。

今年は桜の開花が非常にはやかだったので花は楽しめませんが、穏やかに晴れて青葉繁れる若葉を愛でましょう。

まだまだお申込み受付中です、ぜひ遊びに来てください。テーマ「自動運転」です。

今号には久しぶりの誌上哲学対話「ミニさろん」を掲載しています。

毎号毎号、登場人物が不思議な名前を名乗ってるんですが、今回は過去にないくらい、ネーミングの規則性とテーマの関連がわかりにくい回でしたね。わかった方はぜひ例会の時に教えてください。来月の「読み物号」ではまた読者からの寄稿コラムもご紹介予定です。お楽しみに。

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2018/4/16

⇒次号 (5 月 1 日発行予定)

さろん Mail News 第113号 / 2018年4月16日発行【読み物号】

編集・発行：さろん

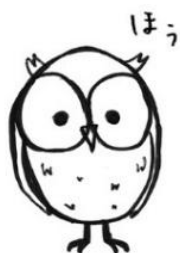
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
 - 「あるばか学校」blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."
